

編集後記

明石海峡大橋、東京湾アクアライン、首都高速中央環状新宿線、東京スカイツリー、あべのハルカス……。現場見学会や取材などのおかげで、平成を代表するビッグプロジェクトの数々を見学する機会を得ました。しかも、ほとんどが施工中の建設現場で、そのときだけしか見ることができない一期一会のもの。完成後それらの施設を利用したとき、改めて貴重な体験をさせてもらったと思ったものです。平成最後の特集では、建設業界の「平成」を振り返ってみました。この30年で、実に様々な出来事があり、たくさんのプロジェクトが実現しました。年表を眺めながら、自らの「平成」に思いを馳せてみてはいかがですか。(N)

「平成」という時代が終わります。日本史の授業で習った「譲位」が行われるシーンに立ち会うとは……。少しワクワクしますね。そして、この原稿を書いている段階では、新元号がまだ発表されていません。新しい時代は何と呼ばれるのでしょうか。こちらを楽しみですね。新しい時代が、幸多き、良き時代となりますように。(I)

発行 一般社団法人 日本建設業連合会
〒104-0032
東京都中央区八丁堀2-5-1
東京建設会館
TEL 03-3553-4095
FAX 03-3551-4954
URL <http://www.nikkenren.com/>

発行者 山本徳治

企画・編集 一般社団法人 日本建設業連合会
広報委員会

制作 株式会社Kプロビジョン

デザイン 株式会社コンセント

印刷 株式会社耕文社

©2019 日本建設業連合会
「ACE建設業界」は日本建設業連合会の登録商標です

年間購読料：4,800円(送料込)

「2018年度省エネルギー計画書およびCASBEE対応状況調査報告書」を公表

日建連は、建築設計委員会に参画する会員30社を対象に、日建連会員企業における環境配慮設計(建築)の推進状況を盛り込んだ「2018年度省エネルギー計画書およびCASBEE対応状況調査報告書」を取りまとめました。

主な結果を見ると、回答のあった30社のうち57%の17社が、地方自治体や発注者が要求する案件以外でも、社内基準を設けて自主的にCASBEE評価を実施しています。また、70%の21社がCASBEE評価に数値目標を定めています。

また、CASBEE評価実績については、全体の94%が標準的なビルのCASBEE評価値(BEE1.0)を上回るB+ランク以上(BEE1.0以上)を示しており、最も多いのは、B+ランク(BEE1.0以上1.5未満)で全体の約48.3%、最高のSランクの割合は全体の5.5%でした。

調査は、2017年度に建築物省エネ法に基づく届出・申請を行った延面積2,000㎡以上の設計案件について、エネルギー消費性能に関する評価値および「CASBEE(建築環境総合性能評価システム)への対応状況」「CASBEE評価の値」について実施しました。今回は2017年4月に施行された「建築物省エネ法」*の規制措置が適用される初めての調査になります。

本年2月に建築物省エネ法の適合義務の対象範囲が中規模オフィス等にまで拡大され、建築計画における環境配慮の重要性がますます高まっていくことから、建築設計委員会では今回の調査結果を踏まえ、環境性能向上と環境負荷低減に関して取り組むべき課題の抽出と検討を行うとともに、今後も調査を継続していきたいと考えています。

なお本報告書は、日建連ホームページで公開しており、下記URLからご覧いただけます。

https://www.nikkenren.com/kenchiku/sustainable_2018.html

■本件の問い合わせ先

日建連 建築部 TEL：03-3551-1118

※建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律(平成27年法律第53号)

お
知
ら
せ